



▲素晴らしい成績を収め続ける只見剣道スポーツ少年団

只見剣道スポーツ少年団 団体優勝など大活躍

第8回河井継之助杯只見剣道大会は10月14日に行われ、団体中学生の部で只見剣道スポーツ少年団Aチームが優勝する等しました。

また、10月27日に行われた第54回全会津少年剣道大会では、団体4年生以下の部で只見剣道スポーツ少年団が優勝しました。

11月10日には、第31回金山町妖精の里剣道大会が行われ、団体4年生以下の部で只見剣道スポーツ少年団が優勝を飾りました。

なお、各大会の成績(優勝のみ)は以下の通りです。

河井継之助杯	シモン旗・ロータリー旗争奪 全会津少年剣道大会	金山町妖精の里剣道大会
○個人 小学4年生以下 男子 鈴木楓真 中学生 男子 矢沢博哉	○個人 男子3・4年生の部 齋藤光希 女子5・6年生の部 本名美里	○個人 4年生以下の部 鈴木楓真
○団体 中学生 男女混合 只見剣道スポーツ少年団A (矢沢博哉、五十嵐千紘、齋藤光希)	○団体 男女混合4年生以下の部 只見剣道スポーツ少年団A (飯塚雄飛、齋藤光希、鈴木楓真)	○団体 4年生以下の部 只見剣道スポーツ少年団 (飯塚雄飛、齋藤光希、鈴木楓真)

只見町グラウンドゴルフ協会長杯・朝日地区地域づくり委員会長杯 グラウンドゴルフ大会 開催

「第25回只見町グラウンドゴルフ協会長杯大会」は10月16日に町下グラウンドで開催されました。

また、「第8回朝日地区地域づくり委員会長杯」は10月22日に開催されました。

両日とも肌寒い天候の中ではあったものの、参加者は日ごろの練習の成果を十分に発揮しました。



▲朝日地区地域づくり委員会長杯に参加した皆さん



▲町下グラウンドで行われた協会長杯

ふくしま駅伝2024 只見町チーム 激走!



▲大会前に結団式で士気を高めた選手たち

「第36回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会(ふくしま駅伝)」が11月17日に開催され、只見町チームが全16区間96.3kmを駆け抜けました。

7日に行われた団結式で、選手の三瓶叶翔さんが「選手一丸となって、1本のタスキをつなぎ、前回よりも1秒でも早く、力いっぱい走り抜きます」と決意表明をしました。

只見町チームは、総合順位45位、町の部順位は23位、タイムは6時間14分22秒で、昨年よりも順位を上げ、タイムは約15分も縮めました。また敢闘賞に選ばれました。

郷土料理の伝統を守り続ける 全国食生活改善大会、 全国食生活改善推進員協議大会 開催

全国食生活改善大会と第54回全国食生活改善推進員協議大会が10月22日に、郡山市のビッグパレットふくしまで開催されました。本県では初開催となります。

当大会では、全国の食生活改善推進員や関係者など約900人が参加し、食生活の改善や郷土料理の継承に向け決意を新たにしました。

また、高円宮妃久子さまもご出席され、「世界に誇るこの財産が、生きた文化として次世代に受け継がれていくよう引き続き努力していただきたい」とご挨拶をされました。



▲大会に参加した町食生活改善推進員のみなさん

身近な人権について学ぶ 朝日小「人権教室」開催



▲いじめについて真剣に考える児童と人権擁護委員

朝日小学校3年生と4年生を対象に「人権教室」が、10月28日に行われ、只見町人権擁護委員の角田行雄さん、渡部早苗さん、渡部仁一さんが講師を務めました。

児童は「いじめ」に関する動画を視聴し、無視することや悪口をいうことなどの「いじめ」が人権を侵害することを学び、また、いじめを無くすためにはどのようにしたら良いかを考えました。児童からは「いじめられている子の気持ちを考える」、「勇気を持っていじめを止める」といった意見が出されました。

人権擁護委員の皆さんは「いじめに立ち向かう勇気と思いやりの気持ちを持って生活してください」と児童に呼びかけました。

ただみ・モノとくらしのミュージアム 入館者1万人達成！

「ただみ・モノとくらしのミュージアム」の累計入館者が9月28日に1万人を達成しました。

1万人目の入館者となったのは、生方忠雄さん、則子さん(塙町)で、ご夫婦での来場でした。

生方さんには、記念品として、只見町の伝統工芸品である編み細工のバッグと企画展図録が贈呈されました。

当ミュージアムは令和4年7月22日に開館後、昨年8月には累計入館者5,000人を達成しています。



▲ご来場いただきありがとうございました

只見町の秋の実りを楽しむ 「米フェス&JAまつり」 開催

只見米ブランド協議会主催で「第4回只見米フェス」が10月26日に只見線広場で開催されました。また、同会場で「只見地区JAまつり」が同時開催されました。

オープニングでは、只見米ブランド協議会の山内征久会長の開会宣言に続き、もちまきが行われ、開会をお祝いました。

会場では、「只見米」の食べ比べや只見高校生による「米粉マフィン」の試食会、ただみ農家の嫁俱樂部によるもちの振る舞いの他、JA会津よつば只見女性部や農青連による出店も並び、来場者は、秋の味覚に舌鼓を打ちました。



▲ステージイベントの他、もちつきも行われました

紅葉の只見町を楽しむ 「只見町ウォーク」 開催



▲「いってきます」とカメラに手を振る参加者

福島県認定の「歩こうふくしま59」コースを歩く「只見町ウォーク」が10月26日に開催され、約200人が参加しました。

コースは、JR只見駅を始点に、ただみの森キャンプ場やブナセンターをチェックポイントとして回る5kmコースと、J-POWER只見展示館まで回る7kmコースが設けられ、参加者らは、只見川沿いに色づいた紅葉を満喫し、ゴール後は米フェス会場で只見町の秋の特産品を堪能しました。

当時の感動と記録を刻む 甲子園出場記念碑除幕式 開催

只見高校野球部の第94回選抜高等学校野球大会(センバツ)出場の記念碑が町下野球場のベンチ脇に建立され、その除幕式が6日に行われました。

只見高校は21世紀枠で出場し、強豪大垣日大を相手に会津地方の学校として初となる得点を挙げるなどした他、ハツラツとしたプレーで甲子園を沸かせ、多くの人の心に残る試合をしました。

野球部の現主将・印南奏詩さん(2年)は「先輩たち一人一人が輝いてプレーしていたのを思い出します。記念碑は甲子園に立つというモチベーションになります。夏の甲子園出場を目指します」と決意を話しました。



▲記念碑そばで校歌を斉唱する現野球部員

友達と家族とハロウィンを満喫

「ハロウィン映画まつり」開催

中央公民館主催の「ハロウィン映画まつり」が明和公民館で11月2日に開催され、親子約60人が参加しました。

今回上映された映画「FLY! / フライ!」は、渡り鳥なのに一度も移動したことがないカモの家族が大冒険する物語で、旅の中で成長していく姿を描いたアニメーション作品です。

参加者には、さんべ農園からお米で作ったポン菓子を提供され、優しい甘さが大好評でした。座席も指定は無く、持ち寄った座布団などを置いて座る自由席制で、友達同士で並んで楽しく鑑賞する子どもたちの姿も見られました。



▲映画館とは違った雰囲気の中で映画を楽しみました

芸能発表やマジックショーに会場が湧きました

文化協会創立30周年記念イベント 開催

只見町文化協会主催の「只見町文化協会創立30周年記念イベント」が11月10日に季の郷湯ら里で開かれました。

第1部は芸能発表会が行われ、文化協会加盟団体による舞やコーラス、演奏などが披露されました。

第2部はマジシャンとして活躍している空先拓海さんそらさきたくみによる「感動トーク&魅惑のマジックショー」が行われました。

トークの中で空先さんはマジシャンを目指したきっかけを話しました。空先さんは、過酷な家庭環境で育ちましたが、がんで入院した親友を元気づけようと手品を猛練習され、お見舞いの度に披露しました。後に奇跡的にがんを克服したその親友に、空先さんの励ましが支えになったと言われ、マジシャンを目指したそうです。マジシャンとして駆け出しのころに東日本大震災が発生、空先さんもボランティアに参加し、その時目にした「諦めずに協力して苦難を乗り越えようとする人たちの姿」に勇気をもらい、マジックで東北から元気を届けたいと決心し、岡山県から福島県に移住しました。現在、県内の学校、保育所でも公演をされています。

今回の公演でもマジックで只見町の人に元気を届けてくれました。



▲第1部では約20演目が披露されました



▲第2部で会場を盛り上げた空先さん

共に刻んだ、50年の絆

「しあわせ金婚夫婦表彰式」開催

只見町老人クラブ連合会主催の「しあわせ金婚夫婦表彰式」が11月8日に季の郷湯ら里で開かれ、金婚を迎えられた町内のご夫婦13組のうち8組が出席しました。

表彰式では参加した各組に表彰状の伝達や記念品の贈呈が行われました。その後、大東一仁さん・みえさんご夫婦が、受賞者を代表し謝辞を述べました。大東さんは「いつもそばにいてくれた存在は大きい。2人共々健康に豊かに過ごし、また、微力ながら町の振興に協力してまいります」と話しました。



▲これからも夫婦仲良く幸せにお過ごしください

響きあう音、育む心

「只見町小中学校音楽祭」開催



▲「水平線」を披露した朝日小児童

第61回只見町小中学校音楽祭が11月7日に只見中学校で開催され、町内3小学校の3、4年生、只見中学校3年生が参加しました。

音楽祭では、只見小が「春の小川」・「たなばたさま」など4曲の合奏と「小さな世界」の合唱、朝日小が「水平線」の合唱と校歌の合奏、明和小が「オーラ・リー」の合奏と「マイバラード」の合唱、只見中が「友～旅立ちの時～」の合唱をそれぞれ披露しました。

最後には、「ビリーブ」を全体合唱し、会場全体に素敵な歌声が響き渡りました。

只見町から未来へ、持続可能な社会のために

「東北ESD／SDGsフォーラム」開催

只見町におけるユネスコエコパークや伝統文化等の地域資源を生かした持続可能な地域づくりのためにESDやSDGsの取り組み事例などを発信し、ESDの重要性を高めることを目的とした「東北ESD／SDGsフォーラム2024 in 福島只見」が11月15日に只見町内において開催されました。

フォーラムでは、福島テレビのお天気キャスターを務める斎藤恭紀^{やすのり}さんの基調講演から始まり、渡部町長、会津工場取締役統括本部長の鈴木誠さん、さんべ農園の三瓶清志さん、目黒中央公民館長、ちよの会代表の渡部ヨリ子さんらが、所属する企業や団体のSDGsなどへの取り組み紹介を行いました。



▲会津工場のHプロセス工法がCO₂の削減や素材を無駄なく使えることなどSDGs視点から工法の解説を行った鈴木さん

音楽が繋ぐ 只見線の未来

JR只見線応援チャリティーショー 開催

夢広場主催の「第12回 只見線応援 歌と踊りのチャリティーショー」が11月17日に季の郷湯ら里で開催されました。

第1部では友情出演による歌や踊り、第2部では歌手によるステージショーが行われました。

また、会場には募金箱が設けられ、JR只見線の振興を目的とした募金活動が行われました。



▲歌で只見線を盛り上げる出演者

秋晴れの中、かつての薪炭林を歩く

ブナセンター自然観察会開催



▲ブナの実を探す参加者

ブナセンター主催の『ただみ観察の森「梁取のブナ林」観察会』が11月9日に梁取の観察の森で開催されました。

梁取の観察の森は、かつての薪炭林から再生した美しいブナの二次林で、集落の協力の下、観察の森として整備されました。

観察会では、林の中を散策して落葉を集めたり、ブナの種子の豊凶の仕組みや暗い林床で日光が差し込むのを待っているオオカメノキの生態などの解説が行われました。

また、森林環境税で製作された標柱を建てる整備体験を行いました。

参加者らは気持ちの良い秋晴れの下、紅葉を楽しみながらの観察会となりました。

世界に一つのオリジナルハンカチを作る

ブナセンター友の会「ブナの葉染め体験会」実施

只見町ブナセンター友の会主催の「ブナの葉染め体験会」が11月16日にただみ・ブナと川のミュージアムで開かれ、約30人が参加しました。

「自然首都・只見」伝承製品のブナの葉染めを製造している「ぶないろくらぶ」を講師に、参加者はブナの葉から作られた染液を使って、ハンカチを染め上げました。

体験は、和やかな雰囲気の中行われ、参加者全員が思い思いの模様をつけ、世界に一つしかないオリジナルの素敵なブナ染めのハンカチが完成しました。



▲完成した作品と共に記念撮影をした参加者

『芍薬の里・只見町』一般公開セミナー 生薬と花の町への挑戦と未来へ只見の森が育む自然の豊かな恵みへ』開催



有限責任事業組合クラウドゥ只見が主催する『芍薬の里・只見町』一般公開セミナー「生薬と花の町への挑戦と未来へ只見の森が育む自然の恵みへ」は、11月9日に只見公民館で開かれ、町内外から約1000人が来場し、熱心に聴講しました。

セミナーは「薬の地産地消」を掲げる福島県立医科大学会津医療センター漢方内科の三瀧忠道みつただちみち特任教授が司会を務めました。はじめに港屋漢方堂薬局（伊達市）の貝津好孝氏が「薬草でいっぱい宝の森」と題して、只見町に生育する代表的な薬草を紹介しました。

次いでクラウドゥ只見代表の高原豊氏が「『芍薬の里・只見町』を目指して」として、薬用芍薬の栽培を始めた経過や実際の苗の植え付けから出荷までの様子やボランティア募集事業、

花を使ったお茶などの製品開発と販売をしていることなどを紹介し、町づくりにつなげて行きたいと抱負を述べました。

製薬会社（株）栃本天海堂の佐藤公紀氏は、只見で栽培された芍薬の根が「只見産」と明記した生薬「シヤクヤク」として会津医療センターへ納められるまでの加工過程や、国産シヤクヤクは2%しかないことなどを紹介しました。

会津医療センター漢方医学講座の田原英一教授は、「漢方で余裕シヤクヤク、ライフト」と題して、シヤクヤクが使われている漢方薬をその効能別に説明し、広く使われ、また、さまざまな効能があることを楽しく分かりやすく話しました。長野県の北アルプスの麓で林業に携わりながら森林資源を生かす活動をしている安曇野森林（もり）づく

り企画代表の山口真保まほろ氏は、生薬のオウバク生産の復活や国内初のコウホネの栽培を手がけたこと、イタヤカエデでメイプルシロップなどの生産に取り組んでいる、事業継続のポイントのほか、何かを始めるのに年齢は関係ないと強調されました。

最後は、千葉大学の池上文雄名誉教授（生薬学）の総評で終了しました。

会場内には、掘上げた薬用芍薬の根の実物や生薬「シヤクヤク」、芍薬の花び



▲展示された芍薬の根

らを使ったお茶やジャム、ゼリー、味噌などの製品も展示されていました。

セミナーの様子がクラウドゥ只見の活動は、新聞やテレビでも報道され、只見町外においても関心の高いことがうかがえました。

有限責任事業組合クラウドゥ只見では、薬用芍薬の栽培収穫ボランティア募集（今シーズン終了）や、まずは100株から、町内で薬用芍薬の栽培を試しに始めてみる「100株栽培」の栽培者を募集しています。興味がありましたらお問い合わせください。

クラウドゥ只見
FAX: 021-3242
メール: kaudhu@gmail.com
担当: 渡部・高原